■寄附の方法

現金（直接来庁または**金融機関にて納付書払い**）、**現金書留**からお選びいただけます。

※ 寄附金取扱金融機関は、以下の本店（本所）および支店（支所）です。こちらで納付書払いをされる場合は、手数料はかかりません。 他の金融機関をご希望の際は、渋川市への寄附金の支払いが可能か、手数料が必要かどうかを金融機関にご確認ください。

群馬銀行	足利銀行	東和銀行
北群馬信用金庫	利根郡信用金庫	中央労働金庫
ぐんまみらい信用組合	北群渋川農業協同組合	赤城橘農業協同組合

※ 大変恐縮ですが、現金書留の際の郵便料・手数料等はご負担をお願いします。

■寄附のながれ

1. 寄附申込書にご記入いただき、郵送、FAX、メールのいずれかでご提出ください。
2. 申込書を受領後、「お支払いのご案内」を郵送またはメールにてお送りしますので、お支払いのお手続きをお願いいたします。
3. お支払い確認後、「寄附受納書兼領収書」を郵送いたします。寄附金控除の手続の際に必要 になりますので、大切に保管してください。

※ 寄附申込書は、ホームページからもダウンロードできます。
https://www.city.shibukawa.lg.jp/viewer/info.html?id=10763　または右の二次元コードから
※ 寄附受納書兼領収書は再発行できませんので、ご了承ください。

寄附のページ

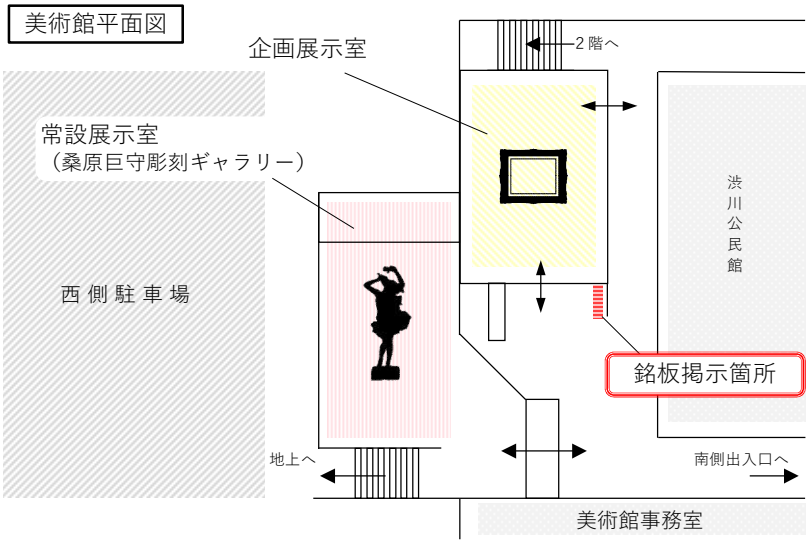
■寄附金額

1口 10,000円からお受けいたします。

■寄附のお礼

- ご寄附くださったみなさまに、ささやかながら感謝状を贈らせていただきます。
- お名前を渋川市広報紙・ホームページでご紹介させていただきます。また、10口以上の寄附をいただいた方につきましては、お名前を記した銘板を館内に掲示させていただきます。

美術館平面図



※銘板の大きさは、寄附をいただいた口数によって異なります。
◉10～49口
縦11cm×横3cm程度
◉50～99口
縦11cm×横7cm程度
◉100口以上
縦11cm×横10cm程度

※銘板の掲示順は、順不同とさせていただきます。

※仕様は若干変更になる場合があります。

■税法上の優遇措置について

この寄附金は、地方公共団体への寄附となるため、税法上の優遇措置が適用されます。

寄附者が個人の場合は、所得税の税額控除及び住民税控除の対象となります。法人の場合は、法人税において一般の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められます。

詳しくは、税務署（住民税についてはお住まいの自治体の住民税担当部署）へお問合せください。

■お問合せ・お申込み先

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館　〒377-0007 群馬県渋川市石原6-1（渋川市役所第二庁舎1階）
開館時間 10:00～17:00　火曜休館（祝日の場合は翌平日）　TEL0279-25-3215　FAX0279-23-1907
✉museum@city.shibukawa.gunma.jp
http://www.city.shibukawa.lg.jp/ （渋川市ホームページ）

美術館のページ

渋川市美術館
桑原巨守彫刻美術館

つながり
ひろがる
あおぞら美術館を
一緒につくりませんか

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館への寄附のお願い

平成12(2000)年に開館して以来、渋川市の街中で親しまれてきた渋川市美術館・桑原巨守彫刻(ひろもり)美術館は、令和6(2024)年市役所第二庁舎に移転しました。

新しい美術館のコンセプトは「**つながり ひろがる あおぞら美術館**」。市全体を垣根のない“あおぞら”に見立て、ひとと芸術・文化・地域などをつなぎ、そのつながりを広げることで、みなさまが文化的に前向きに生きるお手伝いをしたい、という思いを込めました。

いつでも誰でもつながることができる、芸術文化活動の拠点となる美術館の運営のため、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

新しい美術館が力を入れて取り組みたいこと

**ジャンルに
とらわれない
企画や発表**

**作家とひとをつなぐ
渋川をテーマとした
企画展示**

**芸術に触れる
きっかけになる
ワークショップ**

**手で触れて
鑑賞できる展示**

美術館は、令和6(2024)年3月3日に開館いたしました。

渋川市美術館
桑原巨守彫刻美術館

「芸術の森構想」と桑原巨守

渋川市は、昭和61(1986)年1月に「芸術の森構想」を策定しました。市全体を「芸術の森」に見立て、市内の公共施設や中心市街地などに野外彫刻を設置し、芸術作品が日常の一部として存在する文化の香り高いまちづくりを推進してきました。

桑原巨守とのつながりは、昭和62(1987)年から始まりました。桑原の自然讃美の作風と、自然と共存する市のまちづくりの政策が一致したことから、彫刻《讃太陽》を平沢川緑道橋上広場に設置しました。続いて渋川駅前広場に《風と花》、金島ふれあい公園に《麗陽》、市中心市街地のマロニエ通りに7体の彫刻を設置しました。市民にとって身近な場所に、桑原の作品があります。

平沢川緑道橋上広場に立つ《讃太陽》

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館

旧渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館は、平成12(2000)年に「民間施設を活用した銀行店舗と同居する美術館」として、群馬銀行旧渋川支店の中に開設しました。

開設当時は「街中のオアシス“街角美術館”」といったコンセプトを掲げ、県内初の「彫刻作品を常設展示する公立美術館」として歩み始めました。

常設展示では、桑原の作品を定期的に入れ替えながら紹介しました。自然讃美の作風と渋川市の豊かな自然環境とが相まって、多くの市民に心のゆとりをもたらし、潤いの場となりました。

企画展示室は、興味深く観覧していただけるよう、地域にゆかりのある作家や現代社会に息づく革新的な作家の作品などを展示してきました。また、展示室を市民ギャラリーとしても活用することとし、“一般市民も展示できる場”として、多くの人に活用していただきました。

さらに、作品とともに楽しむコンサートや、体験を通じて楽しむワークショップなどを開催し、単なる鑑賞にとどまらず、様々な角度から美術に触れることができる機会を提供してきました。

移転の経緯

開館から20年が経過し、施設の賃貸借契約期間が満了となることに伴い、令和2(2020)年に「あり方検討委員会」を設置。市民アンケートを実施し、美術館を利用する皆様の声等を受けた上で、渋川市役所第二庁舎1階の「もみじサロン」と「もみじテラス」に移転することが決定しました。

第二庁舎は中心市街地にあり、JR渋川駅からも徒歩圏内の場所です。渋川駅と伊香保温泉を結ぶバス路線の沿線にあり、高速道路のインターチェンジからのアクセスもよく、観光客も立ち寄りやすい場所です。また、公民館や保健センターが併設されている複合施設であるため、美術館を訪れることが目的ではなかった人にも、美術に触れる機会を提供することができます。

そして、この移転を好機ととらえ、新しいコンセプトと運営方針を定めました。

新美術館の思い

新型コロナウイルス感染症や長期化する経済不況、緊迫した世界情勢など、現代社会では日々の生活における不安や先行きの見えない閉塞感が重く立ちこめています。そうした中で、将来に希望を抱き前向きに生きるために芸術や文化が果たす役割は、非常に大きなものがあると考えます。

芸術鑑賞は、作品と共存し、他者と共感し、主観的な感覚から客観性を養い、想像力と精神の均衡を育みます。また、未来の宝である子どもたちの心の豊かさや強さは美しさを感じることから、思考力・発想力・想像力は作品を創作することから育まれます。

多様化する現代社会において、ひとがお互いを大切にし、支え合い、誰もが生き生きと過ごすことができる「共生社会」の実現のためには、芸術を通じて心のゆとりを持ち、好奇心や想像力を働かせ、他者と積極的に関わろうとする心の強さを育む機会を提供することが重要であると考えます。

新美術館の使命は、ひとと芸術・文化・地域などをつなぎ、そのつながりを広げることで、ひとがより文化的に、前向きに生きるための力を呼び起こすことです。その思いをあらわすために**「つながり ひろがる あおぞら美術館」**というコンセプトを定めました。「芸術の森構想」により野外彫刻が点在する市全体を開放的なあおぞらに見立て、美術館がその拠点となり、垣根なくいつでも誰でもつながることができる場所となることをイメージしています。

人々が未来に向かって前向きな気持ちで日々の生活を送ることができるよう、新美術館は、つながりひろがる芸術文化活動の拠点としての役割を担い、人々の誇りとなるような施設を目指します。

新美術館が力を入れて取り組みたいこと

・ジャンルにとらわれない企画や発表

これまで以上に市民ギャラリーの利用を推奨し、より多様な展示やイベントを行います。

・作家とひとをつなぐ渋川をテーマとした企画展示

渋川市にゆかりのある作家を紹介し、さらに市民とつながれるような企画を行います。

・芸術に触れるきっかけになるワークショップ

芸術に触れる機会がなかった人にも届くようなワークショップを企画し、アプローチします。

・手で触れて鑑賞できる展示

年齢や障害の有無に関わらず鑑賞を楽しんでいただける展示方法を追求します。

寄附金の使途

みなさまからいただいた寄附金は、美術館の運営のために使わせていただきます。

具体的な使途は次のとおりです。

・彫刻作品、屋外展示の拡充

・教育普及活動

・作品の収集、保管、調査研究　など

桑原巨守の集大成《春のよろこび》